

ざ・ちゅうおう ぶれす

2021年3月号 ^祝 第100号

発行：世田谷区立中央図書館
世田谷区弦巻3-16-8
TEL 3429-1811
FAX 3429-7436

図書館ホームページ（パソコン） <https://libweb.city.setagaya.tokyo.jp/>

（携帯） <https://libweb.city.setagaya.tokyo.jp/i/>

「ざ・ちゅうおう ぶれす」は、世田谷区のホームページでもご覧いただけます。



おかげさまで「ちゅうぶれ」は100号を迎えました

特集は次頁から



1月に区役所第一庁舎ロビーで図書館のPR展示を行いました。図書館の歴史、地域図書館の紹介パネルを掲示、図書館の広報物や製作したグッズ、自動車図書館の模型などを展示しました。

中央図書館カレンダー

3月							4月							5月							6月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6					1	2	3							1			1	2	3	4	5
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26
28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30				
													30	31													

開館時間

火～日 10:00～19:00
月・祝・休日 10:00～17:00

■ は、中央図書館休館日です。
■ は、17時に閉館です。

ざ・ちゅうおうぶれす 100号のあゆみ

ざ・ちゅうおうぶれすは、中央図書館の開館にあわせて誕生した中央図書館単独の広報誌です。皆様のおかげで100号を迎えることができました。今回はその歴史を振り返りつつ、ここまでバトンを繋いできた当時の担当者(☺)に製作の裏話を聞いてみました。

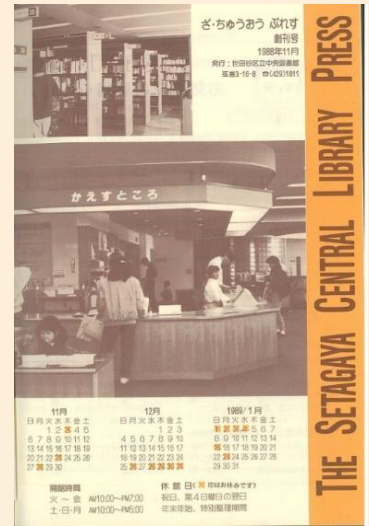
創刊号(1988年11月号)

サイズはB5判で、色上質紙に2色刷りでした。

当初は館内のフロアや書棚の案内、予約申込書の書き方、背ラベルの見方など、図書館の利用方法をご案内する「図書館活用術」シリーズが中心でした。

開館記念講演会には曾野綾子氏を招き2号でレポートしています(右写真)。

身近な街の情報や歴史を取り上げる「特集」は4号からスタート。初回は「古い世田谷を訪ねて~大山道」でした。

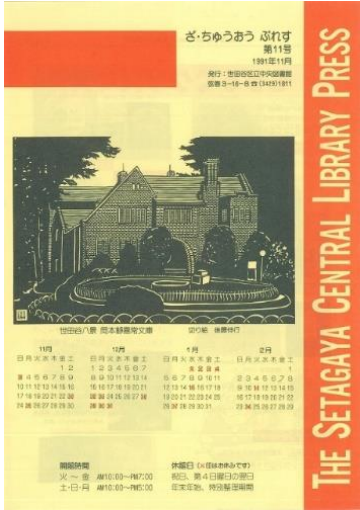


4号から22号までは、「ふるさと世田谷百景」の美しい切り絵が表紙を飾りました。これらは、世田谷百景の選定委員も務められた切り絵作家の後藤伸行氏の作品です。

☺ 「今はDTPで何でもできますが、この頃は編集会議も割付用紙を囲み、全員でにらめっこ。文字は手書きまたはワープロで、枠に収めるため文字数の調整に苦勞しました。写真はもちろんフィルムカメラで撮影、印刷会社に原稿を手渡しするときは、現像した写真をトレーシングペーパーで包み、紙面に掲載する時のサイズを記入していました。」(志村)

絵本でもおなじみ「ねずみくん」シリーズ(ポプラ社)は、著作者の上野紀子氏のご好意により、子どもコーナーの展示などで活躍しています。紙面にも23号からときどき登場しています。

☺ 「子どもコーナーのキャラクター、何にしよう?と話し合った結果、子どもたちに人気で親しみのある『ねずみくん』をぜひ!ということになり、著者、出版社に熱い?お手紙を書きました。ねずみの「チュウ」と「中(ちゅう)」。中央図書館を掛けた洒落でもあります。今も館内で活躍ちゅうです!」(渡辺)



121 The Setagaya Central Library Press Vol.24

アメリカ図書館見聞録

近年から今年にかけて、中央図書館の職員がアメリカ、カナダの図書館を視察し、多くを学んで帰りました。そのうちの一部をご紹介します

ニューヨーク市立図書館

「New York」ストロークがタン美術館に MOMA (現代美術館)、ウリスラビムに 建築館、美術館、音楽、建築とあらゆる分野で世界的な活動をしている。ニューヨークで、まだ新しい人が入ってきた。それは、昨年10周年記念事業である、ニューヨーク市立図書館(図1)。読者はだれも自由に利用できるインターネットである。現在ニューヨークには330の市立図書館がある。定数は1000、4つの図書館の運営で70のコンピュータが用意でき、このコンピュータは、カードや電子データの記録が利用されている。

図1 ニューヨーク市立図書館のイラスト

Vol.24 The Setagaya Central Library Press 131

A Building to Celebrate

The Central Research Library of the New York Public Library

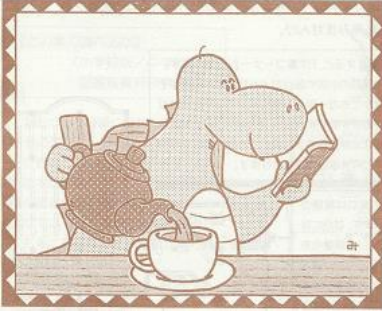


以下は1月1日からの白紙でも印刷して、実際に印刷した、ニューヨークのインターネット事業である。

以下は1月1日からの白紙でも印刷して、実際に印刷した、ニューヨークのインターネット事業である。

24号(1996年3月号)では、図書館職員が視察してきたアメリカの図書館をレポートしました。訪れたうちニューヨーク公共図書館※は今も世界をリードする先進的な存在。「来館者が利用できるインターネットパソコンの大量導入に圧倒された」と記されています。

※紙面では「ニューヨーク市立図書館」と表記しています。



☺「左の39号表紙ほか数回イラストを描きました。当時、表紙は手書きイラスト!という方針で、図書館に来たばかりの私は職場では余裕がなく、自宅に持ち帰りでした(涙)。(須賀)



53号掲載の海外レポートより

THE SETAGAYA CENTRAL LIBRARY PRESS

ざ・ちゅうおう ぶれす 2011年7月号

41号(2001年7月号)からサイズはA4判になり、写真が表紙を飾ります。馬事公苑の騎馬隊が表紙(写真左)の53号では、青年海外協力隊に参加してきた図書館職員のレポートも載っています。(右上写真は現地で行ったお話会の様子です)

☺「表紙写真は毎回自分達で撮りに行きました。出来がよい時は、図書館の利用者から表紙の写真がほしいと頼まれた事もあります。この時は確かネガフィルムを貸しました。」(小川)

☺「写真で絵本を開いているのは私です。協力隊に従事する同僚に会いに派遣先のパラグアイまで行き、現地の子供たちに読み聞かせをしてきました。(もちろん日本語で。)たぶん一生で二度と味わえない、貴重な経験です。」(後藤)

THE SETAGAYA CENTRAL LIBRARY PRESS

ざ・ちゅうおう ぶれす 2015年7月号

「図書館カウンターニ子玉川」がオープンしました!!

83号(2015年7月号)から、紙面がカラーになりました。特集では「世田谷の活字拠点を訪ねて」「書を調べ、町へ出よう」などのシリーズが連載されました。

☺「『書を調べ、町へ出よう』を担当してきました。当初気乗りしないテーマでも調べていくうち興味が増して、あれも書きたい、これも語りたい、と楽しくなってきます。」(田口)

参考にした資料 (いずれも中央図書館に所蔵があります)

ざ・ちゅうおうぶれす GA0137

ふるさと世田谷百景 櫻井正信・後藤伸行著 GA2100



扉をあける読書

講師：ドリアン助川氏



令和2年11月28日

今年の「家庭読書の日」記念講演会は、作家・歌手で明治学院大学国際学部教授を務めるドリアン助川氏をお招きしました。

「扉をあける読書」とは、読書で生まれた疑問を「扉」に見立て、それを入りに調べたり行動を起こしたりすることで、本に書かれた世界が立体化して見えるという読み方のこと。読書は書き手の作家だけでなく、受け取る読み手側にも創造性が必要な行為であり、その体験をより豊かにするのが「扉をあける」ことを意識した読書なのだといいます。



2019年から教授を務めていらっしゃるドリアン氏は、大学の講義の中でこの「扉をあける読書」を学生たちと一緒に実践しているとのこと。そのやり取りを通して見つけた「扉」について、『きけわだつみのこえー日本戦没学生の手記ー』や『仰臥漫録』（正岡子規）を例に紹介していただきました。

深夜ラジオのパーソナリティとして若者たちとやり取りをしていたころから、「生きる意味とは？」という問いかけの答えを考えていたというドリアン氏。締めくくりとして『あん』に登場する元ハンセン病患者の女性・徳江の手紙の朗読をしていただくと、参加者たちは講演の内容を噛みしめるようにじっくりと聞き入っていました。

読書への思いからドリアン氏の生き方や考え方までぎゅっと詰まった、「扉」をあけたくなるような充実した講演会となりました。

「子どもの本の講座～子どもに絵本を手渡すために～」を開催しました

科学絵本を使ったおはなし会のコツ

令和2年11月27日・12月4日

ご好評いただいた昨年に引き続き、高柳芳恵先生（科学読物研究会）をお迎えして今年さらさらグレードアップ！



さまざまな科学絵本の紹介をはじめ、それらを、どのように物語や詩などと組み合わせるとおはなし会を構成するか、心を引き付ける実演のテクニックなどを伝授。科学絵本のブックトークでは、説明を交えながら先生が自ら実演してくださいました。『自分の興味のないものは子どもに薦められない。色々な本に興味を持って見比べることがその人の財産になる。』という先生の言葉が印象的でした。

子どもの成長に合わせた絵本の選び方

令和2年12月3日・9日

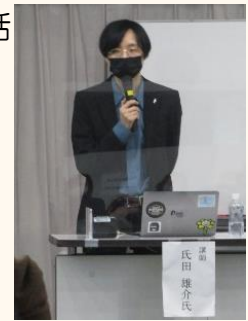
JPIC 読書アドバイザーの児玉ひろ美先生を講師にお招きし、絵本の選び方についての講座を2日間にわたって開催しました。講座では、それぞれの年齢の子どもたちの発達段階のお話や、年齢別におすすめの絵本の読み聞かせの実演もしていただきました。家族と一緒に絵本を読み、大人の楽しそうな姿に憧れて育つことが大切であり、家庭読書の必要性についても話がありました。参加された方から「我が子のために選んだ本を、自信



をもって読み聞かせようと活力を得た」「もっともっと子どもに本を読んであげたい」という声をいただきました。

学びのプレゼン講演会「54字の物語～講演会とワークショップ」令和3年1月23日

講師は超短編小説『54字の物語』シリーズの氏田雄介氏。54字という限られた字数で作られた物語の紹介と作り方のレクチャーの後、講師と物語を作る練習です！まず例として「カサ」という言葉から物語を作ります。「雨が降ったらさす」、「壊れる」など当たり前のことを挙げます。次に、わざと反対のこと、間違っただけを考えます。「さしたら雨が降る」、「カサが降る」など楽しい言葉が挙がりました。講師が友達に話して聞かせるようにしながら文章を作って整えると、54字の物語が完成しました！続いて参加者が物語作りに挑戦しました。わずかな時間にもかかわらず多くの力作が発表され、講師も本に載せたいとおっしゃるような作品も飛び出しました。会場は大人から子どもまでの笑い声に包まれ、アンケートでも「子どもと一緒に楽しめた」と感想をいただきました。



参加者の発想に驚き！

図書館コンサート 令和2年11月3日

ミュージカル《マイフェアレディ》のナンバー「踊り明かそう」で幕を開けた図書館コンサート。出演は、昨年度好評だった「ぴっこらな一べ」さんです。軽快なメロディー、ソプラノとバリトンの素晴らしいハーモニーに魅了され、リクエストでは見事な即興アレンジのピアノに圧倒されました。最後はオペレッタ《天国と地獄》から「ハエの二重唱」。アンケートでも

「生の歌声が心にしみる」などの感想をいただき、改めて音楽の持つ力を実感しました。



図書館活用講座(入門編) 令和2年12月3日

粕谷図書館&徳富蘆花記念館見学ツアー

粕谷図書館を見学し、徳富蘆花の明治から昭和初期に出版された希少本を実際に手に取ってご覧いただきました。蘆花恒春園では、特別に施設の方の案内で、記念館や蘆花の旧宅を見学しました。

「地元の人々の蘆花への想いにふれて感動した」「近くに住んでいるのにこんなところがあるなんて知らなかった」など、皆さん新しい発見があったようでした。



粕谷図書館「徳富蘆花コーナー」

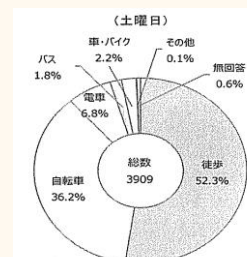


音訳ボランティア養成講座(中級)

令和2年9月～11月(全6回)

昨年度の入門編に引き続き、成毛由紀子先生(東京都立中央図書館音訳講師)をお招きして中級講座を開催しました。録音図書を実際に作成した経験がある受講生から具体的な質問が次々に出され、実践的で活発な講座になりました。「読み方の癖」は誰にもあるものです。助詞を抜いてしまう、語尾が上がるなど日頃は意識しません。しかし、成毛先生の耳はそんな「癖」を聞き逃がさず、それぞれに気付かせてくれます。さらに感心させられたのは受講生の皆さんの熱心さ。何度も練習されたので、次の回には癖を直して参加される方ばかりでした。

受講生を悩ませたのは、表・グラフ等を言葉で伝える技術です。聞く方がわかるよう言葉にする難しさ。例えば、右のグラフ、皆さんならどのように言葉で説明しますか？



図は令和元年度図書館アンケートより「図書館までの主な交通手段」

令和2年 人気資料ベスト10!

昨年も多くのご利用ありがとうございました。
人気のあった図書・CDのベスト10を、全館の予約数から集計しました。

図書部門

- 1 ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー (プレイディみかこ) 新潮社
- 2 流浪の月 (凧良ゆう) 東京創元社
- 3 クスノキの番人 (東野圭吾) 実業之日本社
- 4 少年と犬 (馳星周) 文藝春秋
- 5 ライオンのおやつ (小川糸) ポプラ社
- 6 FACTFULNESS -10の思い込みを乗り越え... (ハンス・ロスリング他) 日経BP社
- 7 カケラ (湊かなえ) 集英社
- 8 女帝小池百合子 (石井妙子) 文藝春秋
- 9 熱源 (川越宗一) 文藝春秋
- 10 「育ちがいい人」だけが知っていること (諏内えみ) ダイヤモンド社

※ 1位、6位の2作は昨年もランクイン、逆に言うとヒット作が少ない一年でした。10位以降は『逆ソクラテス』、『家族じまい』、『一人称単数』、『流人道中記』と続きます。児童書では『ふしぎ駄菓子屋銭天堂』シリーズが人気でした。

CD部門

- 1 ニュートンの林檎(椎名林檎) エバ-カルミューヅ ック
- 2 Perfume The Best "P Cubed" (Perfume) エバ-カルミューヅ ック
- 3 ユーミンからの、恋のうた。(松任谷由実) エバ-カルミューヅ ック
- 4 21世紀ベストセレクション「前途」(中島みゆき) ヤマミュージックコミュニケーションズ
- 5 オーパス オールタイムベスト1975-2012 (山下達郎) ワナ-ミュージック
- 6 Singles-2000- (中島みゆき) ヤマミュージックコミュニケーションズ
- 6 GRAMMY ノミニーズ2020 ワナ-ミュージック
- 8 海のOh,Yeah!! (サザンオールスターズ) タイタ
- 9 5×20 YEARS ALL TIME BEST 1999-2019 (嵐) ジェイストム
- 10 MISIA SOUL JAZZ BEST 2020 (MISIA) ヲニ-ミュージック

※ 1位2位は初のベスト盤。映画では「天気の子」が14位、芸能では「最後の松之丞」が20位でした。

新たな発見! 中央図書館にはこんな雑誌もあります!

コーチング・クリニック

(ベースボールマガジン社)

スポーツ監督・コーチの指導理論や選手の体のケア等について取り上げている雑誌です。ここでしか聞けない指導者、現場スタッフの声を競技を問わず読むことができます。

(請求記号 P04-07)

月刊新聞ダイジェスト

(新聞ダイジェスト社)

新聞6紙1ヶ月分の主要な時事ネタ、社説等を掲載している雑誌。各紙の記事の読み比べが手軽に出来るので、毎日忙しくて新聞を読む時間が無い方にもお勧めです。(請求記号 S10-25)

月刊むし(むし社)

世界中の昆虫の分類、生態情報や最新の採集記録、研究報告が掲載されている専門誌です。児童用の図鑑にはない詳細な昆虫情報を味わえる、昆虫愛好家にはたまらない一誌となっています。(請求記号 N02-13)

HOUSE & GARDEN

(Conde Nast Publication)

イギリスの室内インテリアやガーデン模様を写真で掲載した海外雑誌。英語が分からなくてもイギリスの生活文化を目で追えるので、飾りつけの参考にもなる一誌です。(請求記号 H02-29)

飛ぶ教室 -児童文学の冒険-

(光村図書出版)

児童文学作家の新作が読める、児童文学の総合誌です。広く児童文化と向き合いながら新しい世界を切り開いています。童話や短編小説の募集もありますので、興味のある方はぜひ!(請求記号 J)





新着図書案内



『キャラメル色のわたし』

シャロン・M. ドレイパー著 横山和江訳
(鈴木出版)

白人の母と黒人の父を持つイザベラは、両親の離婚を機に、二人の家を1週間おきに行き来する生活を送っています。

居場所が定まらない苛立ち、自分は黒人と白人のどちらなのかというアイデンティティの悩みを抱えながら、大好きなピアノの発表会に向けて一生懸命練習に打ち込みます。いよいよ迎えた発表会当日、黒人の兄と会場に向かう途中で突然警官に囲まれて…。数々の理不尽な出来事に遭遇しても、現実を受け入れながらたくましく生きるイザベラの姿がエネルギーに描かれているだけでなく、アメリカで起きている人種差別問題（BLM）についても考えさせられる内容です。



【請求記号 J赤と】

『旅する神々』

神崎宣武著 (KADOKAWA)

日本の神様は、様々な理由で日本を旅していました。この本では、『古事記』や『日本書紀』、また各地方に伝わる神話の神様が、どのような旅をしたのかを紹介しています。

国つくりの神様“オオクニヌシ”、浦島太郎のモデルである“山幸彦”など主に5柱の神様を取り上げています。大昔の資料だからと侮るなかれ、非常に詳細な旅の記録が残っています。神様も恋をして、ゆく先々で女をめとり、人間には考えられないほどの奔放な様子に思わず笑ってしまいます。行程を描いた地図や、絵や写真も豊富で分かりやすく示してあり、日本神話の面白さを端的に味わえる資料です。



【請求記号 1720 か】

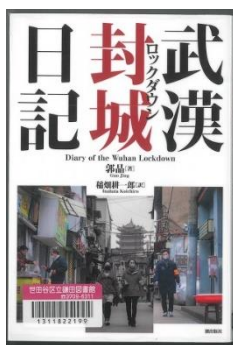
『武漢封城（ロックダウン）日記』

郭晶著 稲畑耕一郎訳 (潮出版社)

2020年1月以降、新型コロナウイルス発生地として名を知られるようになった武漢。この本は、ソーシャルワーカーである著者がブログに綴った武漢での日々の生活の記録です。

清掃作業員や商店主等へのインタビュー、仲間とのビデオチャットから、都市封鎖の中、中国の庶民が直面した問題が浮き彫りになっています。また、そんな状況でも夕食のメニューやブログのフォロワーのコメントも綴られ、ほっとする1日の終わりを感じさせます。

本書の記録は1月23日から3月1日までの「未完」となっていますが、ブログはロックダウン解除の4月8日まで続いているとのことです。



【請求記号 4986 か】

『困ったときのおへやあそび』

近藤理恵著 (かがわ出版)

コロナ禍でおうち時間が増え、子どもが退屈していませんか？おうちでの遊びに一工夫欲しいときにオススメの一冊です。

4歳～8歳の子ども向けで、おうちにある身近なもの、例えば牛乳パックではこまを、ダンボールではロボットを、紙コップでは愉快的「ぱくぱくさん」を作ります。氷や紙コップでできるお風呂あそびも、気軽に簡単に楽しめます。

さらには、ごはんやパンをアレンジしてできる料理もちょこっと紹介してあり、子どものテンションが上がること間違いなし！

スマホやゲームではなく、いつもと違うあそびをみつけてみませんか？

【請求記号 7500 こ】





図書館からのお知らせ♪



子ども読書の日記念講演会

「絵本はどこから生まれてくるの？」

講師：いとうひろし氏（絵本作家）

☆著書に『ルラルさんのにわ』（ポプラ社）

『おさるのまいにち』（講談社）など

日時：4月25日（日）

午後2時～3時30分

会場：教育センター

（中央図書館）3階「ぎんが」

対象：小学生から大人まで

※詳細は「区のおしらせ4月1日号」をご覧ください。



「なぜ？なに？大はっけん！！

かがくのおはなし会」

日時：4月24日（土）

午後3時～3時40分

会場：教育センター（中央図書館）

3階「おおぐま」

対象：小学生から 先着20名

※申し込みは不要です。当日会場にお越しください。小学生未満は保護者同伴でご参加ください。

科学絵本を読んだり、簡単にできる実験をします。



各イベント・おはなし会は、新型コロナウイルス感染症の予防のため、予定を変更または中止する場合があります。最新の情報は図書館にお問い合わせいただくか、または図書館ホームページでご確認ください。

世田谷区電子書籍サービスを開始しました！

電子書籍は、インターネットに接続できる環境があれば、ご自身のパソコン、スマートフォン等で貸出、閲覧等ができます。

対象：世田谷区内に在住または在勤・在学されていて、図書館の利用者登録済みの方

概要：貸出数2点まで、貸出期間2週間

予約数2点まで、予約取置期間1週間

※ご利用には、電子書籍サービス専用の「電子ID」と「パスワード」が必要です。図書館の利用登録とは別に登録する必要があります。



編集後記

コロナ禍で過ごす日々が1年以上経ちました。現在も感染し苦しんでいらっしゃる方々が減らず、医療従事者等、第一線でのご苦勞が絶える事はありません。昨年の今頃は、これ程長引くとは思っていませんでしたし、図書館が臨時休館するなんて想像した事ありませんでした。休館中、「早く図書館を開館してください」というご意見を多くいただき、『図書館が必要』と考えてくださる方々の声を心強く感じています。

本号で紹介したイベントの講師の方々皆マスク姿です。今回は100号記念として過去のざ・ちゅうおうぶれすを遡ってみました。後にこの号を見直したときに、「そうそう！あの頃は大変だったねー」とマスク無しで語り合える日が早く来ることを祈っています。